

2020年度 研究所活動報告

研究会

女性のキャリアとコロナに関する研究会

2020年8月25日、連合の方々と、女性のキャリアとコロナに関する研究会（非公開）をオンラインにて開催いたしました。当研究所より、コロナ調査から見られた、コロナ禍における男女での働き方へ与える影響の違いについての分析を説明し、連合の方からコロナ禍における労働相談などを通して見られる現状についてお話をいただきました。大変意義のある研究会となりました。

研究会

労働現場でのジェンダー格差は是正されるのか、固定化されるのか

2021年1月19日、埼玉大学の金井郁先生をお迎えして、研究会を開催いたしました。ケアの必要性という視点から、特に、法施策が企業に行動変容を促し、雇用類型の変化へと繋がってきた様子について生命保険会社の事例研究を交えながら具体的かつ丁寧なご説明をいただきました。コロナ禍の影響などを含めた活発な質疑応答も行われ、大変有意義な研究会となりました。

研究会

ドイツ・スイス企業におけるダイバーシティ・マネジメント

2021年3月2日、法政大学キャリアデザイン学部の武石恵美子教授をお招きして、研究会を開催いたしました。欧州企業の雇用システムの多様性をふまえ、ドイツとスイスの企業における人事管理の状況について、インタビュー調査の事例分析の結果をお話いただきました。日本でもジョブ型雇用の導入が検討されており、人事部門と現場管理職の役割など今後の参考となる点が多く、参加者と活発な質疑応答が行われました。

研究会

コロナ禍後に真の働き方改革なるかーキーとなるのは生活時間アプローチ

2021年3月17日、東京駿河台法律事務所 弁護士の坏由美子先生をお招きして、研究会を開催いたしました。生活時間の法理念化について、ケアする労働者が解雇されるなど差別にあっている実態など、法律家としての観点からの大変興味深いお話を伺いました。コロナ禍後の働き方改革のあり方についての課題や展望について参加者との活発な意見交換が行われました。

※毎年大変ご好評をいただいております SPSS ワークショップ（学内向け）はコロナウイルス感染対策のため、延期させていただくこととなりました。2021 年度は開催を予定しております（詳細は当研究所 HP 等でお知らせいたします）。

2020 年度 彙報

◆研究事業

・2020 年度における傘下研究事業は以下のものである。

- (1) エイジフレンドリーシティの組織・施策・運営に関する国際比較研究（増田 幸弘）
- (2) 家族・家計経済研究センター（永井 暁子）

・独自研究事業の進展

- (1) 昨年に引き続き女性起業家調査、中小企業における働き方事例調査をそれぞれ進めた。女性起業家事例集を作成・RIWAC ホームページに掲載を行った。
- (2) 「女性とキャリア」に関わる調査報告書の収集及び書誌データ（RIWAC・DA）の拡充をはかった。
- (3) コロナ禍における女性労働者への影響について調査の分析・報告を行った。

◆教育支援

・教養特別講義 2 の講師選定、及び同講義の課題図書選定を行った。

◆情報の発信・ネットワークの構築

・研究事業の一環として、以下のシンポジウム、研究会などを開催した。さらに学外の研究者や研究機関との交流を行った。

- (1) シンポジウム テーマ「コロナ禍で女性労働を見つめ直す」

パネリスト報告：

「新型コロナの影響下での在宅勤務の推進と男女の機会不平等」

山口 一男（シカゴ大学 教授）

「新型コロナと女性の雇用危機」

周 燕飛（（独）労働政策研究・研修機構 主任研究員）

「コロナ禍における女性の影響と課題」

井上 久美枝（日本労働組合総連合会 総合政策推進局長）

パネルディスカッション：コーディネーター 大沢 真知子

（日本女子大学 現代女性キャリア研究所長）

2020 年 3 月 13 日 13 時～14 時 30 分 成瀬記念講堂、オンライン同時開催

- (2) 研究会

「女性のキャリアとコロナに関する研究会」

報告：RIWAC 研究員、連合の方

2020年8月25日(火) 14時～16時 オンライン開催

「労働現場でのジェンダー格差は是正されるのか、固定化されるのか」

講師：金井 郁(埼玉大学教授)

2021年1月19日(火) 10時～12時 オンライン開催

「ドイツ・スイス企業におけるダイバーシティ・マネジメント」

講師：武石 恵美子(法政大学教授)

2021年3月2日(火) 10時30分～12時 オンライン開催

「コロナ禍後に真の働き方改革なるか—キーとなるのは生活時間アプローチ—」

講師：坪 由美子(弁護士)

2021年3月17日(水) 14時～16時 オンライン開催

◆研究所発行物

- ・日本女子大学現代女性キャリア研究所 機関誌『現代女性とキャリア』第12号
- ・日本女子大学現代女性キャリア研究所ニューズレター vol.12
- ・女性起業家事例集

『現代女性とキャリア』 投稿規定ならびに執筆要項

(2011.10.25 委員会決定)

(2017.6.30 改訂)

【投稿規定】

1. 本誌は日本女子大学現代女性キャリア研究所の機関誌であって、原則として年一回発行とする。
2. 投稿資格は問わない。
3. 投稿は女性とキャリアに関する研究論文及び研究ノートとする。この場合のキャリアとは職業経歴だけでなく、社会の中での女性の「生き方」としてとらえることとする。研究ノートは、論文に準ずるもので、研究上の問題提起、研究プロジェクトの経過報告、他の著書・論文への批判・反論、外国書の紹介・批判などをテーマとする。
4. 投稿論文及び研究ノートは編集委員会が受理した後、査読委員の審査を受け、掲載の可否が決定される。
5. 投稿原稿は投稿規定を満たした未発表のものに限る。ただし、学会等で口頭発表したものについては、その限りではない。また、他誌との二重投稿は認めない。
6. 投稿者は原稿2部（氏名・所属入り1部、氏名・所属なし1部）を2月末日（当日消印有効）までに、編集委員会事務局に郵送で提出する。期日までに郵送されなかった原稿は一切受理しない。
7. 原稿は執筆要項にしたがって、必ずパーソナル・コンピュータの文書ソフトで作成する。
8. 投稿者は、査読結果返送用の封筒（A4判が入る大きさの封筒に、返送先住所氏名を明記。切手は不要）、および以下の事項を記した別紙を、投稿原稿と一緒に編集委員会事務局に郵送で提出する。また、別紙の内容を投稿と同時に電子メールの本文に記して編集委員会事務局に送信する（添付ファイルは不可）。
＜別紙記載項目＞
 - ① 氏名（ふりがな）、ローマ字表記
 - ② 住所・電話番号
 - ③ 所属・職名
 - ④ 論文のタイトル
 - ⑤ 投稿の種別（論文／研究ノート）
 - ⑥ 電子メールアドレス
9. 掲載を認められた投稿者は、指示にしたがって修正したうえ、完成原稿をメールに添付するか、内容を保存した電子媒体（CD-ROM等）を指定した期日までに提出する。完成原稿には、執筆者名、所属などを記載する。
10. 論文の掲載順序は編集委員会が決定する。
11. 本誌に掲載された論文の著作権はすべて本研究所に帰属し、本研究所ホームページ及び国立情報学研究所（CiNii）、日本女子大学学術情報レポジトリ上で電子化・公開される。
12. 本誌を無断で複製あるいは転載することを禁ずる。

【執筆要項】

提出する原稿の形式は、以下の通りとする。

1. 執筆の形式

(1) 日本語表記とし、A4判用紙を使用し、40字×40行、フォントは10.5明朝（章・節・項はゴシック）と設定し印字する（縦書きを希望する場合は要相談）。

(2) 論文及び研究ノートは、

- 1) タイトル
- 2) 英文タイトル
- 3) 氏名、下にローマ字表記
- 4) 英文要旨（200語程度）
- 5) 英語キーワード3つ（日本語訳付）
- 6) 本文、図表等
- 7) 文末注
- 8) 文献
- 9) 所属

の順に構成し、総ページ数を論文は12ページ以内、研究ノートは10ページ以内とする。

3. 本文

(1) 本文中の見出しは以下の順でランクを統一する。

- | | | |
|-----|---|-------|
| 1. | } | 数字：全角 |
| (1) | | |
| 1) | | |

(2) 年号は西暦表記を基本とする。

ただし、必要に応じて「昭和50年代」などの和暦表記を用いる。

(3) アラビア数字やアルファベットは半角にする。

(4) () 「」 『』 等のかっこは全角にする。

(5) 句点と句読点は「、」「。」を用いることとする（英文要旨には「,」「.」を用いる）。

4. 図表等

(1) 図・表等を挿入する場合、原稿の該当箇所に挿入もしくは添付する。

(2) 他の著作物からの引用は、出典を明記し、必要に応じて著作権保持者から許可を得る。

(3) 図・表は、それぞれに通し番号をつけ、タイトルをつける。

例 図1、表1

図-1、表-1

5. 注記、文献

(1) 注記は該当箇所の右肩に通し番号を付し、注は本文末尾に一括する。

(2) 引用・文献は、原則として次の方式によって記載する。

① 文献を一括してアルファベット順に並べたリストを作成し、末尾に付す。

② 文献注は、原則として文献リストへの参照指示という形で記す。すなわち、本文や注の該当箇所に、（著者名（姓）西暦発行年「：」ページ）を記して、文献リストの

該当文献の参照を指示する形式をとる。

- ③ 文献記載および配列の方法（形式）は指定しないが、論文の中で統一する。

例・書籍：著者名，出版年，『タイトル-サブタイトル』出版社名。

・雑誌論文：著者名，出版年，「論文名」『掲載誌名』巻（号），掲載ページ。

・編書論文：論文著者名，出版年，「論文名」編者名『編書タイトル-サブタイトル』出版社名，掲載ページ。

・翻訳書：著者ファミリーネーム，ファーストネーム他，出版年，タイトル：サブタイトル，出版社名。（＝出版年，訳者名『訳書タイトル-サブタイトル』出版社名）

・欧文書籍：著者ファミリーネーム，ファーストネーム他，出版年，タイトル：サブタイトル，出版社。

・欧文雑誌論文：著者ファミリーネームファーストネーム他，出版年，“論文タイトル：サブタイトル”，掲載誌タイトル：サブタイトル，巻（号），掲載ページ。

- ④ 欧文の場合は書名・雑誌名をイタリック体にする。

- ⑤ 同一著者が同一年に発行した複数の文献は、発行年を 2009a、2009b のように表記して区別する。

現代女性キャリア研究所 現代女性とキャリア 第13号

2021年9月30日発行

編集 日本女子大学現代女性キャリア研究所編集委員会

編集委員長 坂本 清恵

東京都文京区目白台 2-8-1

日本女子大学現代女性キャリア研究所

Tel : 03-5981-3380 Fax : 03-5981-3381

発行 日本女子大学現代女性キャリア研究所

印刷 膳栄社

東京都千代田区神田猿楽町 2-2-12
